

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては別添の資料が提出されている。これらについては、本事業のホームページの資料あるいは各実施大学のホームページ等でご参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2021年（令和3年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

- 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ（主幹校主催プログラム）【連携】
 - ・オンライン（Zoom）によって、教員、学部学生及び大学院生を対象として、第1部は薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に係るミニシンポジウム、第2部は大学院博士課程進学を促進するためのキャリア形成ワークショップが開催された。
 - ・教員及び学生にとって、薬学教育モデル・コアカリキュラムの在り方、薬学教育の課題を考える良い機会となった。
 - ・キャリア形成ワークショップでは、SGDによって大学院進学の意義・終了後のキャリア形成について討議が行われた。

<千葉大学>

- 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（2015年度開始）
 - ・学部生を対象として、附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行っている医学部・看護学部学生と病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間行った。

<富山大学>

- 就職・キャリア支援プログラム（*）
 - ・学部生及び大学院生を対象として、就職、キャリア支援を目的として、以下の講座や、ガイダンス・説明会等を実施した。
 - ・就職ガイダンス「自己分析講座」
 - ・就職ガイダンス「適性検査対策講座」
 - ・就職活動にむけて、採用動向 就職情報収集のポイント（薬学系専門分野）
 - ・先輩の就活体験談から学ぶ「誰も教えてくれない」募集要項の見方講座
 - ・就活準備スタートアップ講座

- ・就活準備ガイダンス
- 「製薬企業概論」
 - ・来年度入学の1年次生を対象として、富山県の製薬企業における研究やMR職以外に薬剤師の活躍について学ぶ（予定）。

<静岡県立大学>

- 多職種連携演習（IPE教育）
 - ・学部生を対象として、静岡県立総合病院・静岡済生会病院と協力し、薬学部・看護学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を行った。
- 地域防災演習
 - ・学部生を対象として、COC事業の一環で静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて薬学部と看護学部との合同で防災種連携演習を必修科目として実施した。
 - ・ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。
- 防災講習会
 - ・学部生を対象として、地域防災演習を受講しふじのくに防災マイスターの資格のある学生が高校生の防災意識を高めるために、防災に関する講演や避難所のシミュレーションゲームなどを行った。
- 静岡救命連携演習
 - ・学部生を対象として、必修科目としてBLSプロバイダーコースを学内で開催し、医療者として必要な1次救命処置を身に付け、国際的資格を取得するための演習を実施した。
- AED講習会
 - ・学部生を対象として、早期体験学習及び静岡救命連携演習の発展カリキュラムとして、高校生や地域の方を対象にAED講習会を実施した。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した学生と教員により指導を行った。
- ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業会
 - ・学部生を対象として、仮想現実（VR）とシミュレーターを活用して臨場感に富む学習環境を作り、学修者の臨床能力に応じた教育手法の開発を図った。本年度は事業の進め方とVR映像の概略について基礎的調査と打ち合わせを行った。
- 大学院特別講義
 - ・大学院生を対象として、年3回、学外の著名な研究者を招聘して研究の最前線に関する講義を開講した。
- 薬学講座
 - ・学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象として、薬害被害者の講演と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演会を行った。
- 月例セミナー
 - ・学部生及び大学院生を対象として、年8回、学外の著名な研究者を招聘して研究の

最前線に関する講義を開講した。

- 静岡県立大学薬学部・病院・地域薬局連携薬物療法研修会
 - ・現場薬剤師、大学院生及び学部生を対象に、年4回、処方医などから薬物療法の実践的内容及び処方意図を学習する研修会を開催した。
- 静岡3大学連携講義（大学院：フロンティ科学特論） **【連携】**
 - ・東海大学、静岡大学及び静岡県立大学の3大学連携大学院講義「細胞マイクロ環境から全身の生命活動を理解する～細胞科学研究最前線～」をオンラインで実施した。講師は3大学の教員と外部講師が務めた。本学からは25名の大学院生と教員が参加した。

<名古屋市立大学>

- 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会（主幹校主催プログラム） **【連携】**
 - ・学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
 - ・厚生労働省や関連教育研究機関・組織における医療行政やレギュラトリーサイエンスに関するインターンシップ等を開発・実施することにより、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成が期待できる。
 - 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育の開発と実施 **(*)**
 - ・4年次生を対象として、以下のプログラムを開発・実施した。
 - ・患者、薬剤師模擬体験型学習：4週間の体験学習
 - ・手話による服薬指導研修
 - ・精神科専門病院の薬剤師、臨床心理士による特別演習
 - ・高齢者医療におけるポリファーマシー改善を目的とした外来講師授業
 - ・経腸栄養シミュレーターを利用した経腸栄養剤と簡易懸濁法の体験実習
 - ・薬局薬剤師と連携した薬剤師実務研修
 - ・オンライン服薬指導演習
- ◇ 参加人数：4年次生59名

<岐阜薬科大学>

- WEBシラバスシステム導入
 - ・学部生及び大学院生を対象として、WEBシラバスシステムを導入して、教育効果の向上を図った。
- ロールモデル講演会
 - ・4年次生を対象として、岐阜薬科大学を卒業後米国でPhD.を取得し、大学病院で活躍しているOGの講演会を実施した。
- キャリアパス講演会
 - ・4年次生を対象として、岐阜薬科大学を卒業後大学病院で薬剤師として勤務しながら

ら博士（薬学）を取得し、薬剤師と臨床研究を並行して実施するなど活躍しているOGの講演会を実施した。

<京都大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・ 1年次生を対象として、夏季休暇中に多職種連携医療体験実習を実施した。
- ◇ 参加人数：薬学部15名、医学部医学科111名、医学部人間健康科学科12名
- ・ 4年次生を対象として、後期集中講義として「医療安全学」を開講し、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。
- ◇ 参加人数：薬学部19名、医学部108名
- ・ 1年次生を対象として、夏季休暇中に医学部の学生と合同で医療現場の動画による学習と、オンライン（zoom）での医療現場との対話や質疑応答を行った。実習終了後にはオンラインでの事後ワークショップを行い、チーム医療の重要性を学習した。
- ・ 4年次生を対象として、医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、医療事故の分析についてSGDを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。

<岡山大学>

○ 全国学生オンラインワークショップ

- ・ オンライン（Zoom）開催の全国学生ワークショップへ参加し、薬剤師としての多様なキャリア等についてディスカッションを行った。
- ・ オンライン形式での開催であったが、活発な討論が行われた。

○ 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ（主幹校主催プログラム）【連携】

- ・ オンライン（Zoom）によって、教員、学部学生及び大学院生を対象として、第1部は薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂に係るミニシンポジウム、第2部は大学院博士課程進学を促進するためのキャリア形成ワークショップが開催された。
- ・ 教員及び学生にとって、薬学教育モデル・コアカリキュラムの在り方、薬学教育の課題を考える良い機会となった。
- ・ キャリア形成ワークショップでは、SGDによって大学院進学の意義・終了後のキャリア形成について討議が行われた。

○ 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会（主幹校主催プログラム）【連携】

- ・ 学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
- ・ 厚生労働省や関連教育研究機関・組織における医療行政やレギュラトリーサイエン

スに関するインターンシップ等を開発・実施することにより、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成が期待できる。

○ 医療人講演会（*）

・学部生及び大学院生を対象として、オンライン形式で岡良成（岡山市幸町記念病院 外科医長）による講演会を実施した。

○ 薬学研究部門（*）

・1年次生、2年次生を対象として、研究職、教育研究職あるいは、Pharmacist-Scientist な、研究を必須とする職業のキャリア志向を醸成するために、研究室の単なる見学ではなく、研究（実験）を実体験させる演習を実施した。

・新型コロナウイルスの感染状況を配慮して数日から一週間程度の期間実施した。

◇ 参加人数：1年次生、2年次生27名、協力研究室：11研究室

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

・学部3年生を対象として、医療人としての倫理観を醸成するために薬害被害者1名を招聘し、勉強会を開催した。

○ キャリアセミナー

・学部生及び大学院生を対象として、薬学出身者の多様な進路を紹介するために、オンライン形式で企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方をお招きしての講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を2日間開催した。

・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、オンラインでの開催となった。

○ 手術室見学実習

・学部生を対象として、手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。

○ 精神科外来実習

・学部生を対象として、医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、精神科外来診療室での診療への陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行い、また精神科入院病棟での担当薬剤師に付き添い、入院時の服薬指導などを体験する実習を行った。

○ 多職種連携教育プログラム

・1年次生及び6年次生を対象として、医学部、歯学部、薬学部合同での多職種連携教育を実施した。

・1年次生は災害医療など3つのテーマにつきチームで議論した。6年次生は学科によって学年は異なるが、実習後の学生が集い2つのシナリオについてチームで議論し、医療チームとして模擬患者への説明を実施した。

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

○ アクティブラーニング方式による総合医療薬学プログラム **(*)**

- ・ 3年次生、4年次生を対象として、必修科目「総合医療薬学1～7」におけるSGDを中心とするアクティブラーニングを取り入れた教育システムの開発し、実施した。
- ・ 代表的8疾患に関係したシナリオをもとにした文献調査、グループディスカッションから、発表資料作成、成果報告、質疑応答までの一連を繰り返し行なうことにより、疾病と薬の理解だけでなく、思考的問題解決能力、コミュニケーション能力の醸成を図った。
- ・ SDG室とプレナリー室にはアクティブラーニングに相応しい装置として、講堂放送システムなどを設置することにより、より高度の成果が期待できる。
- ・ 本年度から卒業研究が開始され、前述の総合医療薬学で養った思考的問題解決能力等を基に各研究室においてテーマを設定し主体的に研究を行った。

<徳島大学>

○ 第9回学部連携PBLチュートリアル

- ・ 高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として、チーム医療の実践に必要な能力・資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案するPBLチュートリアルを実施した。

○ 2021年度 症例解析総合演習

- ・ 薬学部6年生を対象として、薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラム及び臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討する演習を実施した。

<九州大学>

○ 厚生労働省及びPMDAオンライン見学会 (主幹校主催プログラム) **【連携】**

- ・ 学部生及び大学院生を対象として、厚生労働省及びPMDAに将来の進路として、もしくはその業務に興味がある学生に薬事行政の現場を見学する機会を提供し、学生の薬事行政への関心を高めることを目的として企画・実施された。
- ・ 厚生労働省や関連教育研究機関・組織における医療行政やレギュラトリーサイエンスに関するインターンシップ等を開発・実施することにより、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師の養成が期待できる。

○ 多職種連携プログラム

- ・ 学部生を対象として、医学部医学科・保健学科、歯学部との合同演習として「臨床倫理」「インフォームドコンセント」「チーム医療演習」を実施し、ロールプレイやSGDなどを通じて、問題解決能力の醸成のみならず、異職種における専門性の相互理解や他のコメディカルとのコミュニケーション能力の向上を図った。

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修

- ・学部生及び大学院生を対象として、薬剤師の観点から最新のがん治療の動向・現状を把握し、個々の患者に最適ながん治療を実施するための知識を習得することを目的として、がん治療における最先端の陽子線治療を実施している「メディポリス国際陽子線治療センター」のご協力のもと、特別講演会・オンライン施設見学、先輩薬剤師のキャリアパス・意見交換会などの研修を実施した。

○ リーダーシップを学ぶ研修

- ・大学院生を対象として、外部講師を招聘しキャリア形成や研究・ビジネス・社会貢献に必要なセルフリーダーシップ、チームリーダーシップ、グローバルリーダーシップを学び、実践的スキルを習得する研修を実施した。

○ 医学部医学科臨床実習（ポリクリ）と連携した参加型実務実習

- ・学部生を対象として、熊本大学病院の薬剤部と連携して、病院実務習の一環として7内科診療科のうち3～4診療科の医学科臨床実習に医学部生と一緒に参加（合計3週間）し、また中央検査部での検査実施や看護部での病棟看護研修（各1日）、を実施した。
- ・本プログラムは2010年度から開始し、本年度で22回目の実施となる。

2) その他（大学としての取組等）

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSの養成プログラム

- ・東北大学で取り組んできた高度専門薬剤師養成とスーパージェネラリスト・ファーマシスト養成事業を拡大し、革新的医薬品評価開発支援と高齢化社会の新たな医療を担うハイレベルな薬剤師スーパージェネラリスト・ファーマシスト・PLUSを育成するプログラムを実施した。

○ 東北次世代がんプロ養成プラン

- ・文部科学省が実施する「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に東北大学、山形大学、福島県立医科大学、新潟大学が連携する東北次世代がんプロフェッショナル養成推進プランを実施した。
- ・このプランは、第2期がんプロ（正式名：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン）からの得られた成果からがん医療における新たな課題、ニーズが生まれ、これらの問題に対応すべくプログラムを進める。

○ 東北大学未来型医療創造卓越大学院プログラム

- ・医学系、歯学、薬学、生命科学、情報科学、経済学、文学、教育学、医工学に所属する学生が、未来の医療をより優れたものへと変革する人材の育成を目指し、データ（Data）と技術（Technology）を駆使して未来の社会（Society）の課題解決に取り組み、超高齢社会である東北地方、日本そして世界の医療・福祉の理想を求め

て学習するプログラムを実施した。

<名古屋市立大学>

○東海薬剤師生涯学習センタープログラム 公立大学連携薬剤師生涯学習講座 **【連携】**

(*)

- ・静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修を実施した（2015年度から開催を継続）。本学学部学生、大学院生も参加（薬剤師受講は有料、学生・大学院生は無料）。
- ・講義は「臨床現場に必要な薬学最新基礎知識」に特化したもので、実習・演習は薬学部の新しい授業を薬剤師向けに活用した研修を実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症対応としてオンライン（Zoom）による遠隔受講を採用し、年間のプログラムを感染症の状況を勘案し日程を随時変更しながら全てのプログラムを実施した。
- ・3年次生は、授業の一環として基礎薬学演習に薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回実施し（Zoomによる遠隔演習）、学生は薬剤師としての生涯研鑽の重要性を理解するとともに、参加薬剤師は新しい学習方法の体験とその効果を実感できるプログラムとした。

◇ 2020年度参加者：薬剤師144名、学部学生37名（延べ）